

## 朝鮮半島情勢と日本

政策研究大学院大学 (GRIPS)

道下 徳成 (みちした なるしげ)

<https://twitter.com/NaruMichishita>

<https://grips.academia.edu/NarushigeMichishita>

### 1 北朝鮮情勢

#### (1) 核・ミサイル開発

- ・北朝鮮は核兵器 12~20 個分の核物質を保有と推定
  - ・2016年9月、第5回核実験で 11~12kt 程度の出力≒広島型原爆 (10年にわたる能力向上の努力で着実に爆発力を強化)
  - ・2013年、米国防情報局 (DIA) 「中程度の確度で北朝鮮は弾道ミサイルで運搬することのできる核兵器を保有している。但し、信頼性は低い」。2016年、第5回実験後、北朝鮮は「戦略弾道ロケットに装着できる核弾頭」「小型化、軽量化、多種化され、より打撃力が高い各種の核弾頭を必要なだけ生産できるようになった」と発表
  - ・ノドンの射程は約 1,300 キロメートル。日本までの飛翔時間は 10 分程度。1997~98 年頃から配備開始。すでに 200 発以上 (別の見積もりでは 320 発程度) のミサイルと約 50 両の移動式発射台を保有。但し、最近の実験では失敗も多く、信頼性には疑問が。スカッド ER (射程 1,000km) は射程は限られるが信頼性は高い。
- \*判断—北朝鮮は日本を核攻撃する能力をもっている可能性がかなり高い。

#### ・核・ミサイル開発の目的

- ①平時の抑止
- ②戦時の抑止
- ③限定攻撃
- ④瀬戸際外交

#### (2) 金正恩体制の評価

- ・金正恩は「クレージー」と言われるが、実際は合理的かつ能力が高い可能性があるので要注意
  - ・少なくとも金正日よりクレージーではない。
- 金正日—70年代に拉致、80年代にラングーン事件、大韓航空機爆破→北朝鮮がテロ支援国家指定され、韓国との競争に敗れる。2010年には天安艦撃沈、延坪島砲撃。瀬戸際外交は洗練されていたが授業料は高。
- 金正恩—核・ミサイルの開発と運用能力の向上。朝鮮労働党を中心とする組織的な国家運営へ。軍事—辺倒から軍事と経済の並進路線へ
- ・相次ぐ高位級幹部の粛清は金正恩体制の安定と強さの表れ。
- 既得権益を金正日時代の側近達から金正恩の側近に委譲するプロセス

## 2 日本の対応

(1) 弾道ミサイル防衛 (BMD) システムの開発と配備

a) 海上配備型上層システム=SM-3 Block IA ミサイル (イージス艦搭載)

b) 地上配備型下層システム=ペトリオット PAC-3 ミサイル

- いずれも米国から購入=約 1 兆円
- さらに今後、SM-3 Block IIA と PAC-3 MSE (Missile Segment Enhancement) という能力向上型の導入を予定

(2) 国民保護 (civil protection) = 市民防衛

- 2004 年、国民保護法が成立
- Em-Net や J-Alert を用いて通報

(3) 米国の核の傘の信頼性向上

- 2009 年、オバマ「核なき世界」→日本政府、米側に拡大抑止力の維持・強化を要請
- 2010 年に日米間の拡大抑止に関する協議が定例化

(4) 攻撃能力の保有を検討

- ① ノドン後回しを回避
- ② 「日本ただ乗り論」を回避
- ③ ミサイル防衛の効果を最大化
- ④ 資源の有効利用

(5) 対話？

(以上)